

動物用医薬品評価書

豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン(インゲルバックPRRS生ワクチン)の再審査に係る食品健康影響評価について(案)

2007年7月

食品安全委員会 動物用医薬品専門調査会

〈目次〉

	頁
・ 目次	1
・ 審議の経緯	2
・ 食品安全委員会委員名簿	2
・ 食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員名簿	2
・ 要約	3
1. はじめに	4
2. インゲルバックPRRS生ワクチンについて	4
3. 再審査における安全性に関する知見等について	4
(1) ヒトに対する安全性について	4
(2) 安全性に関する研究報告について	5
(3) 承認後の副作用報告について	5
4. 再審査に係る食品健康影響評価について	5
5. 参考資料	6

〈審議の経緯〉

平成 19 年 4 月 20 日	農林水産大臣より再審査に係る食品健康影響評価について要請 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成 19 年 4 月 23 日	関係書類接受
平成 19 年 4 月 26 日	第 188 回食品安全委員会（要請事項説明）
平成 19 年 6 月 22 日	第 76 回動物用医薬品専門調査会
平成 19 年 7 月 12 日	第 198 回食品安全委員会（報告）
平成 19 年 7 月 12 日 —8 月 10 日	国民からの意見情報の募集
平成 19 年 9 月 4 日	動物用医薬品専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告

〈食品安全委員会委員〉

見上 彪	（委員長）
小泉 直子	（委員長代理）
長尾 拓	
野村 一正	
畑江 敬子	
廣瀬 雅雄	
本間 清一	

〈食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員〉

三森 国敏	（座長）
井上 松久	（座長代理）
青木 宙	寺本 昭二
明石 博臣	長尾 美奈子
江馬 眞	中村 政幸
小川 久美子	林 眞
渋谷 淳	平塚 明
嶋田 甚五郎	藤田 正一
鈴木 勝士	吉田 緑
津田 修治	

要約

豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) 生ワクチン (インゲルバック PRRS 生ワクチン) について食品健康影響評価を実施した。

PRRS ウイルスは、ヒトに対する病原性はないと考えられ、本製剤の主剤である PRRS ウイルスの豚に対する病原性は極めて低いとされている。また、新たに報告された副作用症例も、本剤との因果関係が不明の 1 例と一過性の症例でこれまでに同様の症例情報はない。これらのことから、本製剤が適正に使用される限りにおいては食品を通してヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。

豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) 生ワクチン (インゲルバック PRRS 生ワクチン) の再審査に係る食品健康影響評価について (案)

1. はじめに

食品安全委員会は食品安全基本法(平成 15 年法律第 48 号)第 24 条第 1 項第 8 号の規定に基づき農林水産大臣から「豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン(インゲルバック PRRS 生ワクチン)」、同法第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき厚生労働大臣から「豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン」について意見を求められた。(平成 19 年 4 月 23 日関係書類接受)

2. インゲルバック PRRS 生ワクチンについて⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾

インゲルバック PRRS 生ワクチンは平成 9 年 7 月 16 日に農林水産大臣より動物用医薬品として承認を受けた後、所定の期間(6 年間)が経過したため、再審査申請が行われた。製剤の内容については次の通りである。

① 主剤

主剤は米国で分離、継代して弱毒化された、豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) ウイルス MA-104 培養細胞順化株(JJ1882 株)である。

② 効能・効果

効能・効果は PRRS 発症軽減で、豚の体内における PRRS 野外ウイルスの増殖を抑え排泄を抑制する。PRRS ウイルス感染による子豚の生産阻害の軽減を目的としている。

③ 用法・用量

ワクチン(凍結乾燥品)を添付の溶解用液(精製水)で溶解し、その 2mL を 3~18 週齢の豚の筋肉内に注射する。

④ その他

保存剤としてネオマイシンが使用されている。

3. 再審査における安全性に関する知見等について

(1) ヒトに対する安全性について

PRRSは、妊娠豚の死産や虚弱子分娩などの繁殖障害と、離乳豚の慢性肺炎などの呼吸障害の異なる病気からなる症候群疾病である。PRRSウイルスは豚といのししが自然宿主で人獣共通感染症の病原体とは認識されていないことから、ヒトに対する病原性はないと考えられる。⁽⁴⁾

インゲルバック PRRS 生ワクチンは米国、韓国、カナダ、EU 諸国など 20 か国で使用されている⁽²⁾。

主剤であるウイルスは弱毒化されており、3 週齢の豚に接種しても臨床的に異常

を示すことなく、病原性はきわめて低い⁽¹⁾。

保存剤として使用されているネオマイシンは、過去にワクチンの添加剤としての観点から評価され⁽⁵⁾、本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると評価されている。

(2) 安全性に関する研究報告について⁽²⁾

調査期間中、学会誌やJICSTやJMEDICINE,MEDLINE等の検索の結果、外国における本ワクチン接種豚からのワクチンウイルスの垂直及び水平感染を疑う研究報告⁽⁶⁾、及びワクチンウイルスの病原性復帰の可能性を示した報告⁽⁷⁾⁻⁽¹⁰⁾が得られており「PRRS陰性農場では使用しないこと」等の制限事項が本剤の使用上の注意に追加記載された。現時点において日本における本ワクチンによるワクチンウイルスの垂直(水平)感染、及び病原性復帰を疑う事例の報告はない。その他、安全性を懸念させる研究報告は得られなかった。

(3) 承認後の副作用報告について⁽²⁾⁽³⁾

豚に対する安全性が承認取得後、11施設(延べ12施設)の943頭を対象に調査されたが、副作用と思われる症例は認められなかった。調査期間中の情報収集により、2事例の副作用症例が認められた。その1例目は、本剤を接種した繁殖母豚10頭中1頭が発熱し翌朝に死亡した症例、2例目は2週齢の子豚30頭に本剤を接種し、約5分後に全頭が一過性に嘔吐し、翌日には全頭が回復した症例である。1例目は適応外の妊娠豚への接種であり、死亡原因究明も十分に実施されておらず、ワクチン接種との因果関係は不明である。一方、2例目は30頭全頭に発現していることから、本剤との因果関係は否定できないが、これまでに同様の症例情報は得られていない。

4. 再審査に係る食品健康影響評価について

上記のように、PRRSウイルスはヒトに対する病原性はないと考えられる。また、インゲルバックPRRS生ワクチンの主剤であるPRRSウイルスは弱毒化されており、豚に対する病原性もきわめて低い。承認後2例の副作用報告がされているが、1例は本剤との因果関係が不明であり、もう1例は、一過性の症例でこれまでに同様の症例情報はない。その他の副作用の報告はなく、安全性を懸念させる研究報告は認められておらず、提出された資料の範囲において、当製剤に関する安全性を懸念させる新たな知見の報告は認められないと考えられ、当生物学的製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できるものと考えられる。

5. 参考資料

- (1) インゲルバック PRRS 生ワクチン再審査申請書(未公表)
- (2) インゲルバック PRRS 生ワクチン再審査申請書添付資料:使用成績等の調査概要(未公表)
- (3) インゲルバック PRRS 生ワクチン再審査申請書添付資料:参考資料(未公表)
- (4) 動物の感染症:近代出版(2004)
- (5) ウエストナイルウイルス感染症不活化ワクチン(ウエストナイルイノベーター)の食品健康影響評価について; (平成 18 年 8 月 31 日 府食 689 号、府食 690 号)
- (6) Appearance of acute PRRS – like symptoms in sow herds after vaccination with a modified live PRRS vaccine :Veterinary Record,141 ,1997
- (7) Analysis of Open Reading Frame 5 in Japanese Porcine Reproductive and Respiratory Syndrome Virus Isolates by Restriction Fragment Length Polymorphism. 日本獣医学雑誌. 63(11) ,2001
- (8) Complete genome comparison of porcine reproductive and respiratory syndrome virus parental and attenuated strains. Virus research., 74(1-2),2001
- (9) Reversion of a live porcine reproductive respiratory syndrome virus vaccine investigated by parallel mutation. Journal of General Virology.,82(6) ,2001
- (10) Examination of the selective pressures on a live PRRS vaccine virus. Archives of virology.,144 ,1999